

八月 月次祭神殿講話



発行所

天理教祝梅分教会

千歳市祝梅 598

☎0123-29-2055

復刊第二十九号

四年ぶりのこどもおぢばがえりの為に数日間ほど教会を開けておりました。その間、皆様には色々心を配っていただきありがとうございました。また、八月六日は恒例の夏季練成会を開催致しました。ありがとうございます。

前後に集中豪雨や台風などがあり、被害のあわれた方々にはお見舞いを申し上げ、祝梅分教会からも何かお見舞いができればと思います。

今月は、新型コロナウイルス感染症の家族がおられ、また感染に対して参拝を控える方がおられました。ただいまはおつとめを陽気に勇んでつとめさせていただきましたことはありがたい限りです。ありがとうございます。

さて、こどもおぢばがえり中は

おやさとかた講話の講師をつとめさせていただきました。身体は神さまからお借りしていること、これは元気だからありがたい、病気や悩み事があるから不幸という訳ではなく、神様から身体をお借りしている事の感謝が根本にあつて、元気で過ごせることに喜び、病気や悩み事に出会ったとしても、大難は小難、無難と通らせていただいている事に少しでも喜ぶことが大事だと思います。

これも根本的なことですが、親神様は私達の親であつて私達は子供です。そして人間は皆兄弟姉妹です。ですから親が子供を苦しめよう困らせようと思つてはいません。陽気ぐらしに向かうための道の通り方なのです。

だからこそ「人を救けて我が身救かる」という教えが心に収まるのではないのでしょうか。

その中で、人生を歩む中で、選択する場面が多くあります。

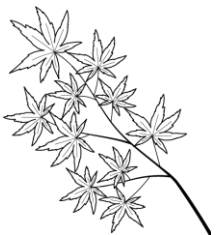
昔の天理時報に、

『幸せを選んでください。人生の中で出会うたくさんの分かれ道。』

その時、幸せにつながる道を選んで下さい。「教祖にお喜びいただくにはどうしたらいいだろう?」という心の物差しを選んで、幸せの道を歩きましょう。』という記事がありました。

私たちが生活をしていく中で、本当にいろいろな道の選び方をしてなくてはなりません。どうすることも出来ない時もあります。しかし、教祖がお喜びくださる心の使い方や身のつとめ方があると思えば、幸せの道を選ぶことができるのではないのでしょうか?

そして、子どもたちにも早くから「教祖にお喜びいただくにはどうしたらいいだろう?」という心の物差しを選んで、間違いない幸せの道を歩いて欲しいと思っております。



ようぼく一斉活動日のお知らせ

ようぼく一斉活動日は、同じ地域に住むようぼくが集い、思召に心を揃え、互いに勇ませ合つてともに年祭活動の歩みを進める日です。ようぼくは、毎回参加しましょう。

○会場○

全支部に会場が設けられます。※教会・支部情報ねつとで掲載しています。

○開催日○

第1回 2023年10月29日(日)

○参加御供○

300円(子連れの場合、中学生以下は不要です)

○プログラム○

開会挨拶

おつとめ

諭達拝読 ※諭達をご持参ください

教会本部からのビデオメッセージ

会場ごとのプログラム

閉会挨拶

座談会

三木 真砂代 さん
 武田 幸子 さん
 木村 明 さん



—今回は練成会が始まった頃からスタッフとしてつとめられた三木真砂代さん、武田幸子さん、木村明さんにお話を伺いながらルーツを探って行きたいと思います。

—練成会が始まった頃から、その後の経緯を教えてくださいませんか？

【木村】昭和四十七年から夏季練成会は始まりました。当時、祝梅には育成スタッフがおられませんので、最初の頃は、大教会から育成委員の方に来て頂いて練成会が行われました。

【三木】私が初めてスタッフとして参加させていただいた時は見学者か、ちよっと、お手伝い程度。二回目もわからないままの同じ状態で全く動けませんでした。

—子どもおぢばがえり後の疲れきった大教会スタッフの姿に「いつまでも頼っていては申し訳ない、このままではダメだ！」という気持ちで芽生えました。その時、美津志会長さんが「僕はね、いつか祝梅のスタッフだけでやる祝梅の練成会をするのが夢なんや。あんたちよつとやってみないか。」とおっしゃいました。子供達の前でゲームをしたり歌ったりなんて私にはとても無理！と不安に思う私に「子供たちの中で十年二十年後に人生で行き詰まった時や困った時に『昔あんな話聞いたなあ。』と少しでも思い出して救わってくれたらいいんや。五十年の間に、たった一人でもいいんや。面白い楽しいだけのお泊まり会なら世間についていける。神様の話、幸せの種をまく教会のお泊まり会をし

たいんや。」と言って下さいました。

その言葉に「自分が何かをするのではなく真心を尽くして後は神様に働いていただく」という心が治り不安は消え、勇んだ気持ちになりました。

—回を重ねるにつれ、どんなことをしたら子供たちが喜んでくれるのかを考えるのが楽しくなって自分も変わったと思います。特に雨の日の教会内行事での「電線マン音頭」の時に、神殿の中段で古い太鼓とすりがねを使わせていただいで（えっ、いいんですか？神具ですけど；笑）大変、盛り上がったのは忘れられません。

【武田】盛り上がりましたね。懐かしい。でも最初の頃は人手がなくて本当に大変でした。一人何役もしながらやっていましたね。それが、だんだん少年会員として参加していた子供たちが成長して、今度はスタッフとして参加してくれるようになってきました。

【木村】昭和五十六年の頃にはスタッフも増え、第十回夏季練成会が盛大に行われました。七日から始まり、八日の夜は第十回の記念パーティーや模擬店、三日目の九日には当時、夕張団の副団長であった藤田文雄先生(現、夕張大教会前会長様)にお越しいただき少年会員による「おつとめまなび」が行われ、六下り目まで五交代で勤められました。

【武田】その次の日は月次祭ですから、本当に当時の教会やスタッフ、ひのきしんのみなさんのパワーはすごいものでしたよね。そのパワーが若人会の発足に繋がったのだと思います。

【三木】美津志会長さんは夏季練成会が始まった頃から「いざ若人会と言う、赤ちゃんから大人までの会を作ろう」と思っているんですよ。」とおっしゃっていました。第十回夏季練成会の後、念願の若人会が発足し、それからは若人会を中心とした夏季練成会となりました。

【木村】私のご命を頂き、若人会初代委員長としてつとめさせていだきました。美津志会長さんは、いつも私達のやりたい事を受け入れてくださり、後押ししてくだいきました。だから、思いつきりやりたい事をやる事ができたのです。会長さんの親心に甘えながら何とかつとめさせていだきました。いわの奥さんを始め、役員先生方、ひのきしんの方々も陰から支えて下さいました。今度は私達が、若人会に対して「思いつきりやってごらん、しっかり支えるから」と言う気持ちでいます。少しでも、美津志会長さんの親心に近づかせていただいて若人会の後押しをして行きたいと思つています。

―練成会といえはキャンプですが、最初のころはご苦労もあつたのではないですか？

【木村】夏季練成会では、早いうちから教会の恵まれた自然を生かし、子供達に自然の中で親神様の

お働きを感じてもらいたいとの思からキャンプを行つていました。最初はテントも無くてお借りしながら行つていましたが、多くの方々の真実から支援をいただき、段々とキャンプ用品も揃つてきました。

その後、当時後継者だった太志会長さんが本部の少年会のキャンプの御用をいただいたことでキャンプのノウハウを学ぶことが出来るようになり、どんどん内容が充実していきました。平成三年の二十回目の夏季練成会の翌年には「育ちの森の泉」のキャンプ場ができ、そこで本格的なキャンプを行うようになりました。

【武田】その後ソフトボールなど多目的に使える「育ちの広場」も出来ました。「育ちの森の泉」も「育ちの広場」も、手作業でみんなのひのきしんによって出来上がったんですよ。

―先日、北海道教区の少年会にキャンプの場として祝梅の「育ちの広場」など使つていただきました

が、設備や道具が揃つていることに驚いていました。長い年月をかけながら、皆様の真実によって出来上がつてきたんですね。

【三木】本当にそうです。教会に繋がる一人ひとりの真実のおかげです。そして、美津志会長さんの深い親心が私達一人ひとりの真実を引き出してくださいました。それによつて教会全体がお救いの場となつていたと思います。

【武田】以前「みちのとも」に祝梅分教会の事を載せていただいた事がありました。その記事の中で当時、高校生だった子が教会の魅力について尋ねられ「神様が働いてくださること。これが、学校や家にはない、教会の一番の魅力だと思います」と、答えたとき、書かれていました。それを見た時は本当に嬉しく思いました。子供達に親神様、おやさまの「人間を救いたい思い」が伝わっていると実感しました。でも「一番救けられているのは実は私自身なのだ」と、感じています。

【木村】全くその通りです。私だけでなく家族もみんな救けていだいています。それが、今日まで続けて来れた原動力になつていいます。それに、大変なこともたくさんあつたけれど、やつていて楽しかった。本当に楽しかつたんです。これからも、みんな楽しんでやらせてもらいたいです。

―そうですね。おやさまも「楽しめ楽しめ」と、おっしゃつていまるのではないでしょうか。本日は、貴重なお話ありがとうございます。

北海道教区報より

少年会 Y.Y キャンプ
8月19日、20日、少年会 Y.Y キャンプを千歳市の祝梅分教会 キャンプ広場にて行つた。1泊2日のキャンプは台風の影響も心配されたが、教務員がしっかりと準備をしてくださつた。雨は降りましたが、みんな楽しんで行つた。キャンプは、子供達にとって大切な思い出になる。また、自然の中で過ごす時間も、子供達の成長に繋がると期待されている。

すべて喜び すべておたすけ
北海道教区

北海道教区のホームページ (https://tenrikyo.com) で教区報をご覧頂けます

『水蒸気』

◎雨が上がり、日が昇ると

大地は吸収した雨量の何%は水蒸気で天に返す。

この水蒸気がやがて雨雲となり雨となってまた再び大地を潤す。

もしも大地が雨量の全てをわが物にして天に返さねば、いづれ雨は降らなくなる。この道理と同じことが人間にもいえる。

◎人は自分智恵や力の働きによって

金を稼いでいると思えば勝である。

だが健康で働けるのは身の内の自由用の神の働きがあればこそである。

もしも収入の全てをわが物にして神への報恩を忘れたら行き詰まる日がくる。



布教の家 愛知寮 高橋悟志



今月も元気に布教に歩いています！

— ハートクリーンキャンペーン
のお知らせ —

10月8日(日) 9:30~11:00

なお、11:30からは御本部で行われている「お願いづとめ※」をさせていただきます。

※教祖140年祭に向かうようばくそれぞれの心定めの完遂とおたすけの御守護を願い、教会本部神殿では、日曜・祝日、毎月25日の午前11時30分に「お願いづとめ」が勤められています。

内容：教会の窓拭き

あとがき

夏季練成会では子供達の笑い声(大人もすけどね)が久しぶりに教会内に響き渡り、ゲームは大人も参加したいくらいの盛り上がりでした。

今回は夏季練成会が始まった頃のお話を三人の方に聞かせていただきました。当時の方々の「親の思いに添わせていただきたい。子供たちを喜ばせたい。」という思いが伝わってきました。精一杯努めたからこそ心から「楽しい」と思えたのではないのでしょうか。

来年の夏季練成会も、皆さんに楽しんで頂き、親神様、おやさまにお喜びいただきたいと思えます。

紙面には出ませんでした。座談会の中で「大人のお泊まり会をやりたいよね。」と言う声がありました。現状では少人数になるとは思いますが、教会で「大人のお泊まり会」いかがですか？